

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|-----------------|------------|
| 事業所番号 | 1270201203 | |
| 法人名 | 医療法人社団 鳳雄会 | |
| 事業所名 | グループホーム ゆうゆう | |
| 所在地 | 千葉県花見川区犢橋町12番地3 | |
| 自己評価作成日 | | 評価結果市町村受理日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | |
|-------|-----------------|--|
| 評価機関名 | 株式会社 日本ビジネスシステム | |
| 所在地 | 千葉県市川市富浜3-8-8 | |
| 訪問調査日 | 平成25年2月21日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは静かな環境にある。ホーム内の浴室の設計も浴槽から外が見える快適な入浴を支援し、食事においても旬の食材、産地直送の米の使用や盛り付けの工夫により、楽しい食卓作りに取り組んでいる。同法人の施設(介護老人保健施設)があり、必要に応じ医師、看護師、PT、栄養士、等との相談、連携ができる体制にし入居者のニーズに合わせた柔軟な支援を行っていると共に合同行事や日ごろの交流を行っている。ホーム職員も認知症高齢者介護について職務歴があり経験豊富である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームゆうゆう」は建物の中心に各ユニットから自由に出入りができるウッドデッキを配置しており、入居者が日光浴や思い思いにくつろげるように配慮された、明るく開放的な平屋建ての施設となっている。十分な介助スペースや複数の避難経路の確保・入居者の不安や混乱を考慮した目印や配置等、入居者の身体機能を活かし安全面に配慮された環境整備がなされている。職員の質の確保や向上を目指しており、様々な研修参加の機会を作り、施設の人材育成プログラムに添った計画的な人材育成に取り組んでいる。千葉県グループホーム協会の役員を務めており、他のグループホームとの交流を通して得た情報や経験を運営・サービスの質の向上に活かすと共に、他の施設との行き来も盛んに行われ、入居者・職員の気分転換や生活活性化にも繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員一同いつも目につく場所に「基本理念」を提示し「理念」の共有と月一回の職員会議、勉強会等で再確認しサービスの向上に心かけている | 入居者の尊厳を尊重し、介護する側を重視した施設独自の理念を掲げている。スタッフルームや玄関等に掲示し、理念の共有に努めると共に、新人研修や勉強会等で再確認を行い、理念に基づくサービスの提供に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の方を招いて、バーベキュー大会、夏祭り、餅つき大会、等を母体と合同で行っている。地域のボランティア(万祝会)、音療法の方の定期的慰問もあり地域住民と交流を深めている | 日頃から近隣住民とは挨拶を交わす関係作りがなされている。地域行事への参加・施設行事への地域住民の招待・ボランティアの受け入れ等、地域との交流促進に向けて様々な取り組みが行われており、地域住民からの協力・理解が得られている。また、幼稚園児や小学生との交流・ヘルパー養成学校の実習生受け入れ等、世代間交流にも積極的に取り組んでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の皆様方、(運営推進会)、家族会の皆様方に行事等にて認知症への理解、事例に基づき意見交換を行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議にはあんしんケアセンターの方、民生委員、家族の参加により現状報告、意見交換がされている。 | 入居者・家族・市職員・民生委員・施設職員等を構成員として、年4回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告を行い、施設理解の促進に努めると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に活用している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 千葉市高齢施設課主催の研修への参加。グループホーム協会を通じ市町村との連携を図っている | 市とは、日頃から業務全般における相談や情報交換を行っており、連携が図られている。また、運営推進会議を通じて地域包括支援センターとは情報交換を行われており、共にサービスの質の向上に取り組む体制が構築されている。他には、千葉市グループホーム協会の役員を務めており、協会を通じて、意見交換や情報の共有を行い、市と協働で地域福祉の活性化にも取り組んでいる。 | |

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止研修への積極的な参加をしている。又研修報告をうけてきた職員には職員会議等で研修報告をしてもらい共有している。ホーム内では今身体拘束している入居者はいない。 | 身体拘束排除におけるマニュアルが整備されていると共に、研修も実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。玄関は日中施錠せず、チャイム等の活用や見守り方法の徹底を図っており、入居者の外出希望時には声掛けや見守り等で対応し、一人ひとりに即した安心・安全に配慮された生活を支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 月1回の勉強会等で虐待について(言葉の虐待)は常に職員間で確認している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 大まかに理解はしている。現在入居者の1名だけ成年後見人の方がいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に家族へ(キーパーソン)直接面接し説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情相談窓口・意見箱を設置している。 | 意見箱や苦情・相談窓口を設置すると共に、家族の面会時に意見を確認している。また、運営推進会議の活用や家族会への出席向上を図ると共に、家族との信頼関係の構築に努める等、家族の意見・要望を言い易いような環境整備に取り組んでいる。挙げた意見・要望においては、会議にて周知・検討を行い、適切な改善・情報の共有を図っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は月一回の職員会議の中で意見交換している。 | 定期的な会議を開催しており、職員からの意見や提案を確認している。また、日頃から管理者は職員と個別に接する機会を活用し、職員の意見・要望・相談等の把握を心掛けている。グループホーム協会開催の研修や交流会等で得た意見や経験を施設運営やケアサービスの向上に活かしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務の希望を取り入れ、働きやすい環境に努めている。忘年会、新年会、カラオケ等リフレッシュできる様努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部、外部研修への参加を積極的に行っている。研修内容の共有と資格取得の推進 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 千葉市グループホーム協会に加入して、協会が主催する研修に参加している。又協会を通じて千葉市のグループホームとの交流につながっている | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 職員全員が傾聴する様心がけている。、利用者の情報を共有し、統一したケアを実践し信頼関係作り努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の面接時、不安、要望、既往歴等を聞き取り、契約時に契約書、重要事項説明書の十分な説明をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 同法人の老人保健施設等があり、多様な選択がある事を事例をもって説明している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者の生活習慣・個々にあった役割を手伝っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族会主催にてバーベキュー・運動会。建物の回りの草取り時に職員と家族又家族同士の交流の場になっている。問題発生した時は家族と話し合い相談している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会・外出・外泊・電話等はいつでも出来る様対応している。入居者が家族の了解を得て入居者の知人・友人と外出する事もある。 | 入居者・家族から情報を収集し、人間関係・生活歴等を把握している。地域の商店への買い物や地域行事への参加等、馴染みの場所への外出を行っており、入居者の希望に添った柔軟な外出支援を行っている。また、家族との外出・外泊等は自由となっており、家族との関係継続も支援している。職員は友人との交流や墓参り等、一人ひとりの生活習慣を尊重し、良好な関係継続が図られるよう取り組んでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ホーム内作業(洗濯物たたみ・園芸・皿洗い等)を職員が誘導し、交流を深められる様支援している | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も利用者、家族からの通信があり、相談も受け入れている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 定期的カンファレンスを行うと同時に、利用者の方一人一人に担当職員をつけ職員会議にて発表してもらい皆で検討する。 | 契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認し、記録している。入居後は、家族との話し合いや日々の生活観察・会話から一人ひとりの意向や思いを汲み取り、より新しい情報の確認に努めている。会議にて本人本位で検討し、入居者の意向に沿ったサービスの提供に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人からの聞き取りは困難な事が多い為家族から生活歴、暮らし方、生活環境等を聞き取り検証している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 介護記録、健康チェック表を朝、夕の申し送り等で共有している。 | | |

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケースカンファレンスを行いケアプランへ反映させている。状況に応じカンファレンスを行い変更している。 | 本人・家族から確認した意向や医師・看護師・職員の意見を基に全職員で話し合い、介護計画を作成している。また、定期的に目標の達成状況の確認や評価を行い、必要に応じて見直ししている。申し送り票や連絡ノートを活用しながら、入居者の生活に配慮した介護計画の作成に努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録・個人別健康チェック表に記録職員間で共有している。状況に応じ変化があればプランの見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 同法人との協力体制が整っているため柔軟な対応をしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣のふるさと農園へ行き季節のイベントを見学し季節感を満喫してもらう。又ホーム内のウッドデッキにプランター置き、栽培(ナス、ミニトマト、イチゴ、アサガオ・ひまわり等)して楽しんでもらう様努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前からのかかりつけ医の受診継続の方、提携病院に受診の方自由に選択してもらっている。緊急時は家族の承諾のもと提携病院に受診できる様になっている。 | 施設の提携病院や希望のかかりつけ医への受診が可能になっている。希望に応じて職員による通院の付添い支援が行われている。定期的に内科や歯科の往診が行なわれており、適切な医療支援が行われている。提携病院とは、緊急時・急変時においては24時間体制で協力が得られるよう連携を図っていると共に、職員による的確な情報提供が行われており、状態変化に応じて迅速に適切な支援が行えるよう体制を整えている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 当グループホームには看護師が配置していない為提携病院の医師、看護師との連携を密にしていると同時母体施設(老健)の医師、看護師に相談している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 主治医、看護師と話し合いと家族との連携も図りながら、退院後も安心して過ごせるような体制を作っている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期まで看取って欲しいとの家族の要望が多い。提携病院の医師・家族と相談しながら対応している。 | 終末期・重度化に関する指針を明文化しており、入居者・家族へ説明をしている。重度化した場合には、入居者・家族の意向を確認しながら、安心して納得が得られる支援方法の検討を行い、施設として出来る限りの支援を出来るよう体制を整えている。普段から提携病院の医師や関係機関と医療面については連携を図っており、状況の変化や希望に応じて適切な支援が行えるよう努めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応マニュアルが作成されており、職員会議でも繰り返し確認している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災通報専用電話機の設置。災害マニュアルを作成している。ホーム内防災訓練を行っている。 | 災害時マニュアルが整備されており、避難経路図の掲示非常階段等、複数の避難経路が確保されていると共に、火災通報専用電話機・スプリンクラー等も設置されており、災害時・緊急時に備えている。年2回、消防署立会いのもと、夜間想定を含めた消防避難訓練を実施し、避難経路や避難方法の確認を行っている。近隣には消防署・同法人の老人保健施設・養護施設等が有り、協力体制が構築されていると共に、食材の備蓄や飲料用の井戸水の確保等、災害時対策の整備も行われている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者に対しての言動、プライバシーは職員間で注意し合っている。全室個室対応ではあるが、利用者全員、夜、就寝時以外はリビングで過ごしている。 | 入居者の尊厳を理念に掲げていると共に、プライバシー保護や接遇に関するマニュアルの整備や研修が行われており、全職員が会話や介助方法等に細心の注意を払う等、入居者のプライバシーに配慮し支援が行われている。 | |

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員が本人に希望を聞く等して、自己決定、自己選択がしやすい状況をつくる努力をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の天候、気分、体調により、その人に合った快適な時間を過ごされるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 近隣の理美容師の方に定期的に訪問して頂いている。服装に置いては夜勤者が利用者々と相談し、又その日の利用者の気分でコーディネートしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居前に好き嫌いを聞き、楽しみのある食事になっている。今現在職員と一緒に食事の準備出来るレベルの利用者はいないが皿洗いは出来る利用者はいる。 | 入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・片付け・調理等を職員と協働で行っている。入居者・調理専門担当職員・職員が共に希望や旬の食材等を考慮しながら買い出しや献立の作成を行い、一緒に食卓を囲み会話を楽む等、一般家庭と同じような食事風景となるよう配慮している。全員参加の外食会・行事食・誕生会等を企画・実施しており、調理方法・盛り付け・提供方法に工夫を凝らす等、食に対する様々な楽しみを提供している。また、家族の参加もあり、食を通して外部の人達との交流も図られている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日の食事摂取量(3回)、水分摂取量を記録している。存在歯や嚥下状態によっては、刻み食、トロミ食にして工夫している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 義歯洗浄(夜間帯でポリドント洗浄)歯磨き、うがいは個人に応じて対応している。 | | |

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用して、一人一人の排泄パターンの把握に努めている。 | 排泄チェック表を活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導・声掛け等を実施していると共に、夜間においては入居者の状況や安全に配慮しながら、トイレ誘導やポータブルトイレの活用等を行い、適切な排泄支援がなされている。また、水分チェック表の活用や医師との連携等、適切な排泄習慣の確保にも努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分量の記録表を活用し(一日千CC以上を目安)て往診時Drの指示を仰いでいる。朝は毎日9:30から全員でラジオ体操を取り入れている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 利用者のその日の状況に応じ午前、午後にも入浴できる様にしている。 | 入浴日は決まっているが、入居者の希望に応じて回数や時間帯等柔軟に対応している。入居者の身体状況に応じた介助方法の工夫やリフト浴槽の設置等、一人ひとりの身体能力に合わせた入浴支援を行うと共に、全職員にて情報の共有を図り、入居者の状況・希望に即したケアの統一を図っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 全員個室対応にはなっている為、テレビ鑑賞したり、昼寝したり自由に過ごされているがほとんどリビングで過ごされている方が多い。リビングのソファでうたた寝されている利用者もいる。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 往診日に体調を報告し主治医からの処方により管理している。個人個人の薬の使用目的がわかるファイルを活用している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一ヶ月の日程と活動に沿って支援している。又その人に合わせ(好きな事、嫌いなこと)た活動も取り入れて支援している。 | | |

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | その日の天候にもよるが、ふるさと農園内散歩、外食、近隣のホームへ遊びに行く等で交流を図っている。外泊においては家族の協力を得ている。 | 入居者の希望・体調・天候等に応じて、散歩や買い物等の外出を支援している。入居者の希望・身体状況・季節等を考慮しながら、全員参加での外出行事を企画・実施しており、家族の参加・同法人所有の福祉車両の活用する等、入居者・家族・職員が戸外での楽しみを共有できるよう配慮している。他には、同法人のデイサービス事業所や他のグループホームとの交流が行われており、外部の人との親睦が図られ、入居者の生活活性化に繋がっている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自己管理の出来る方はいないので、家族の承諾の下職員同伴で買い物をする。その時点で利用者へ現金を渡し支払をしてもらう。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ホームの事務所内で職員が横につき電話かけられる様にしている。(家族承諾の下) | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホーム内全体(廊下・壁等)を季節を感じられる様装飾している。トイレ等混乱しない様ネームプレートや場所の名称をかいた装飾をしている。 | 施設内は全面バリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。リビングには、静養室が設置されており、入居者の状況に応じた活用がなされている。リビング・廊下等には季節に合わせた飾り付けがなされており、季節感を大切にしたい、居心地良い空間作りとなっている。建物が囲むようにウッドデッキが配置されており、各ユニットからの出入りや往来が自由となっており、日光浴や思い思いにくつろげるような空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下、リビング・にはそれぞれ自由に過ごす事が出来る様、長椅子。ソファを置いている。又ウッドデッキへ出て日光浴が出来る様、自由に出入りできるようにしている。 | | |

【千葉県】グループホーム・ゆうゆう

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの家具等自由に配置できる様になっている。制約はない。 | 入居者の希望に応じて馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、好み・生活歴・身体状況に応じて居室の使い方は自由となっており、一人ひとりの個性が反映された居室となっている。全居室にエアコンが設置され、職員により、適切な空調管理がなされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内はすべてバリアフリー設計になっている。ドアは引き戸になっており、廊下の幅は車椅子での歩行にもゆとりがあり手すりも設置している | | |